

石油ストーブ等の給油による事故に注意

石油ストーブ・石油ファンヒーターの給油タンクの蓋が十分にしまっていない場合、給油作業中に給油タンクから灯油がこぼれて火災が発生し、死亡に至る危険性があります。

①安全に給油する

○給油タンクの蓋を確実に閉める

- ・蓋を閉じたこと、油漏れがないことを確認し、石油ストーブ等に戻す

○必ず消火した上で給油する

- ・給油時は暖房機を必ず消火し、火の気のないところで給油

○古い製品は特に注意

- ・2009年に国の安全基準が変更される以前に販売された製品の一部は、給油タンクの給油口が確実に締めたことが確認しづらく、又、給油時自動消火機能がついていない場合がある。


②自宅の製品がリコール品でないか確認

(株)コロナの石油ストーブ等 (2000年以前の製品の一部)

2000年以前の石油ストーブ等に付属するカートリッジタンクの一部の製品において、長期間の使用による給油口の変形などの要因により、給油口がロックされたと誤認する「半ロック状態」になる事象が確認されました。

対象製品については無償点検・修理を実施しています。

■お客様相談窓口 0120-623-238 (午前9時～午後5時 土・日・祝日・休業日は除く)



【製造年の表示位置】
△△年製

【対象製品の製造年】
2000年製 〇〇年製
1996年製 96年製※ 及び 製造年表示のないもの

(1987年製から1995年製の製品には製造年表示がありません。)

※ファンヒーターについては94年製以降製造年表示があります。